

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2018年
1月

149号



宗教法人 真生会

平成三十年信仰目標

徳分を高める

『聞いた教えを

すぐ伝えよう！』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧と

仏さまのものの見方を身に付け

自分の運命を変える

在家の法華経教団です。

宗旨宗派は問いません。

どなたでも安心してお越し下さい。

◇どの家庭も毎日が楽しく

ぬくもりと安心のある家庭になる

◇だれでも毎日がイキイキとし

ありのままに輝く自分になれる

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るいい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（人みな仏の子）

開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁
た なか ひで ひと

ある日、予期もせぬのに良い事や嬉しい事があると、私たちは「棚からボタ餅」と喜ぶ。また棚からボタ餅的な幸運を夢見ても思うにまかせぬと、私は不運だと嘆く人がいる。しかし、世の中はそんなに甘いものではない。知ってか知らずか蒔いた種が生えてくるのであつて奇跡も偶然もない。この因果の二法がわかれば、有頂天になったり、落胆することはない。

さて、どうしたら「棚からボタ餅」が落ちてくるのか。棚にボタ餅を供えることである。その供え方も棚からこぼれるほど供えておけば、ボタ餅はいつとはなくこぼれ落ちるのである。これが仏教でいう布施、施しである。どうせ布施するなら、語呂合わせではないが「伏せる」すなわち低い心、謙虚な姿勢であつてこそ真の徳積みとなるのである。積善の家に余慶ありとは、「棚からボタ餅」のことである。

(真実に生きる、ひかり96号より)

ぶし眞教法話

会長 田中 庸仁
たなか つねひと

◇平成三十年信仰目標

徳分を高める 『聞いた教えをすぐ伝えよう!』

◇徳分を高める方法

明けまして、お目出とうございます。

新年を迎え、今年こそは新しい芽を出したく思いますという決意の挨拶です。芽を出すためには、まず種をまき、水や太陽の温かみや肥料などの手間暇かけて育てます。そうすれば、やがて花が咲き実を結びます。

私たちも幸せになるには、良い種をまき、成長するために徳を積み続け、自分を磨き続けることが大切です。人の幸せはお金や物、学歴や地位によって決まるのではなく、その人の徳分によって決まります。

そこで今年は「徳分を高める」そのためには「聞いた教えをすぐ伝えよう」という目標を掲げました。徳さえあれば、だれでも幸せになれます。その人の

徳分、つまり徳の質とレベルに応じた幸せがやって来るのです。

人は生まれながらに不徳な人はあっても、悪人はいません。赤ちゃんは誰でも純真無垢じゆんしんむくの心で生まれますが、育つに連れ様々な触れる縁によって悪にも善にも染まって行きます。

聖徳太子は「人もと悪少なし、よく教うればこれに従う」と申されました。何をよく教えるのか？

それはお金儲けや常識や学問だけではありません。小さな頃から、成長に応じて人として正しい道を歩むために仏法の真理を教えることなのです。世の多くの人は仏法を知らないが故に、間違つた自己中心の煩惱まるけの人生を歩み、財産や地位や学歴がありながら四苦八苦する人も大勢います。

しかし、自分だけは仏法に触れ、正しい道を歩んでいても、周囲の多くの人が教えを知らず、怒り、愚痴ぐち、貪りむさぼの我流の生活をしていれば、影響を受けて不幸な現実に巻き込まれて行く人もいます。だから、すべての人が幸せになるためには、より良い世の中を作る他ありません。それには、勇気を持って家族や友人、知人に聞いた教えをすぐに伝える以外にありません。

◇教えは伝えることから始まる

お釈迦さまも悟りを開かれた直後、「苦勞してやつと証得した真理の法をなげまた人に説かねばならぬのか。貪りと怒りとに焼かれる人々には、この法を悟ることは容易ではない。この法は世の常の流れにさからい、甚深、微妙、精細にして知りがたく、欲望の激情にまみえたる者、無明に覆われし者には悟りがたい」と法を説くことを躊躇されました。

「世尊よ、法を説きたまえ。善逝よ、法を説きたまえ。この世には眼を塵に覆われること少なき人々もある。彼らも、法を聞くことを得なければ墮ちてゆくであろう。この世には、法を理解する者もあるであろう」という天の神々の勧請（願いと要請）により、釈尊は伝道を決意され、そのお陰様でいま私たちが尊い仏法に出会えているのです。

◇科学を極めれば宗教に到達する

宗教は時代遅れであるとか、非科学的であるとか、意志の弱い人がやるものだとか無用の長物のように言う人がありますが、大きな間違いです。特に仏教は

宇宙の計り知れないマクロな世界からミクロの世界に通じる真理の法です。科学、医学、芸術、学問を究めつくした一流の学者は、人知を超える宇宙の大きな力を感じ、宗教的境地に到達するのです。

中途半端な学者や知識人や成功者が、自分の能力に慢心し、信仰のすばらしさ、宗教の奥深さを知らずに非難し、否定するのです。

以前、酵素「ヒト・レニン」の遺伝子解説に成功した分子生物学者・筑波大学の村上和雄名誉教授にお会いした時の話です。

現代の科学で遺伝子の複雑な二重らせん構造を解明しましたが、その構造と働きを知れば知るほど、いったいこれをだれが作ったのだろうか？構造は解明したが人間の科学力では作れないだろう。仮に作れたとしてもそこに命を吹き込むことはできないだろう。生物の不思議を知れば知るほどそこには何か人間の力の及ばないサムシング・グレイト、神仏の存在がきつとありますと断言されました。

また現代科学の基礎ともいえる「相対性理論」を唱えたノーベル物理学者アインシュタイン博士の宗教に通ずる名言が数々あります。

① 信仰のない科学は不完全であり、科学のない信仰は盲目だ。

信仰と科学は相反するものではなく、相通するものなのです。信あって解げがなければ盲信となってしまう。反対に解（理論）があつて信がなければ邪見となつて人を責めます。信、解が整つてこそ正しい信仰となるのです。

② 人の価値とは、その人の得たものではなく、その人が与えたもので測られる。

財は無くても施しの強い人が真の富める者なのです。菩薩の修行である六波羅蜜の教えも第一番は布施行です。一番身近な布施行は親孝行です。

③ 誰かのために生きてこそ、人生には価値がある。だから、成功した人間になろうとするな。価値のある人間になろうとせよ。

一生懸命稼いで、めしを食べていくだけなら虫けらと同じです。世の中や人さまのお役に立つてこそ人間として生まれて来た甲斐があるのです。働くことは単なるお金儲けではない。傍はた（まわり）の人を樂にすることが本当の働きです。

仏教はすべての人が仏になる教えです。そのためには「まず人さま」の菩薩行をし続けることです。

④ 人生にはの二つの生き方がある。

一つ目は、人生に奇跡などはないという生き方。

二つ目は、すべてがまるで奇跡の連続であるという生き方。

毎日の当たり前のことを感謝し感動して生きる人と、毎日を不足不平の思いで生きる人とは、先に行くほど幸不幸に大きな差が出てきます。

◇身近な所から法を伝える

開祖さまは、入信当初仕事が済むと毎日法座にお参りされ、法座から帰られると同居していた姉夫婦に聞いた教えを伝えられ、家族や親戚を導かれました。

開祖さまも最初は私たちと同じ一信者であり、苦難のどん底から立ち上がり、因縁を乗り越えて幸せとなられ、多くの人々を救われたのです。私たちも開祖さまをお手本として真似まねをしましょう。真似とは真に似ると読みます。開祖さまの真似をし続ければ、やがて本物の菩薩となり、多くの人が救えるようになれるのです。

そして、真の法華経行者となれば「上七代下七代の因縁が切れ」子々孫々に至るまで幸せが訪れるのです。勇気を出して人に教えを伝えましょう！

今月の運勢（2月）

（2018年2月4日～3月5日）

一 白水星

困難に困難が重なり辛い月となるが、くじけず最後まで初志貫徹の強い決意と誠意を持って真正面から立ち向かえば必ず切り抜けられ願いは通る。先祖供養を欠かさないこと。

二 黒土星

包容力と協調・調和を旨とし、おとなしく思いやりのある行動をすれば、すべては思い通りになる。先頭を切るのではなく、相手を立て敬い、後について行けば理想のリーダーを得てうまく行く。

三 碧木星

新しい出来事や思いが

けない出来事に動揺して慌てふためかないこと。泰然自若として自分を見失わなければ後には福がやってくる。

信仰心篤き人は動揺が少ない。

四 緑木星

風の流れに沿うように徹底的に相手の心を汲むこと。謙虚な姿勢で相手の思いに合わせ従えば小さな願いは叶う。但し闇雲に相手に従うのではなく、信頼できる人を選ぶこと。

五 黄土星

力はあるが活発に動く時ではない。昨年までの行動を振り返り、進むべき方向を熟慮する

とき。周囲の動向をよく眺め、相手の要望をまず聞き、どっしり構え慌てないこと。

正しいことを粘り強く一貫して変わらぬ持続性があれば願ひ事は叶う。初志貫徹の強い意志が大切。あるがままを受け止め淡々として前進すれば、天の後押しが得られる。

六 白金星

七 赤金星

家族や友人との楽しい触れ合いが訪れる。楽しい言葉や積極的に発することによって喜びの輪が広がる。しかし、道に外れた喜びや邪な喜びは墓穴を掘る。正

しい努力があれば真の喜びが訪れる。

八 白土星

動かざること山の如し。欲を離れ無私に徹すること。何が起きても外の世界に一々心を動かされないよう信念をもつて伸びやかに過ごすそう。心の持ち方ひとつでどのようでもなる。後は天にお任せ。

九 紫火星

何事も一人でやってはいけない。良き師匠につき仲間と一緒にがんばることは通る。素直な姿勢で他人の言葉によく耳を傾け、謙虚な気持ちを持ち続ければ何事も吉となる。

しあわせ眼鏡

アインシュタインの名言より
「人間は何のために生きてい
るのですか」と日本の大学生
に質問されて、
「他人を喜ばすためです。そ
んなことがわからないのです
か？」
※お役に立って生きる人生に
は生きがいと喜びがある。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|------------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒 501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【所沢教会】 | 〒 359-0037 | 所沢市くすのき台 1 - 9 - 5
T E L 04 - 2992 - 8236 |
| 【名古屋教会】 | 〒 454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |
| 【岐阜教会】 | 〒 500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒 532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。